

先日の河口堰見学会ではお世話になりました。

何でもそうですが、本で読むだけではわからないことがたくさんありますね。

実際に泥の状態を比べたことで悪影響を実感しましたし、河口堰を通過することで感じた巨大な施設のばかばかしさは、うすら寒いほどでした。

持ち帰った5匹のカニは、翌日みんな逃げてしまい、子供は号泣しました。また捕りに行こうと話しています。

田中さんが、見学会の感想を、とのことでしたので、中日新聞に投稿した文章をお送りします。手直しの後、6月4日の「発言」欄に掲載予定だそうです。.....

長良川河口堰の建造に全国的な反対運動があったこと、大村知事と河村市長が公約に掲げた開門調査が頓挫していることは、本や新聞で読んで知っていましたが、実際の姿を見たくて、市民団体の行う見学ツアーに参加しました。船で堰を通過する際には、維持費が年間約10億円という大掛かりな設備を間近に見ました。また、周辺の川底の泥、ヨシ原、カニ等を比べましたが、隣接する揖斐川や木曾川との違いは歴然。汽水域の喪失が及ぼす生態系への悪影響を実感しましたし、揖斐川の砂がざらざらしていたのに対し、長良川の砂はヘドロ状でした。更には、建造の名目であった工業用水の利用はゼロ。...でも、原発事故でさえなかなか変えられない世界で、何ができる？怒りと失望を繰り返している と、何をしても仕方がないという諦めに囚われます。限られた時間と労力の中で、何をするのか。私は長良川河口堰を変えたい。そして諦めに慣れた自分も。

.....

野田知佑さんや天野礼子さんの本を読んで、住民の反対運動があるにも関わらず、長良川等の自然環境が壊されていくことに、憤りを感じていました。ですが...河口堰があれだけ問題になって、頭脳も熱意も人脈もあるたくさんの人々が反対したのに結局造られてしまった、という事実、私たちにできることは結局何もないと思ってきました。実際にがんばっておられる方にそんなことを言うのは失礼でしょうが...今でもその思いが拭えません。

でもやっぱり何かしたい、という気持ちがあって、長良川市民学習会の活動に少しずつ参加してきました。何をすればいいのかわからないままでしたが...これからいろいろ参加したいと思っていますし、何かお手伝いできることがあればしたいです。あとは、周りの友達に河口堰の話をするにしますが、社会問題を話題に出すと白けることがままあるので...できるだけ深刻じゃない雰囲気を作って話す方がいいのかなあ...などと、うじうじ考えてしまいます。

長くなりましたが、有意義な会を開いてくださってありがとうございました。  
またよろしく願います。

棚瀬史恵